

平成28年度 第2回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術を育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

記

「平成28年度 第2回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成29年1月18日（水）15：00～17：00

場所：高知河川国道事務所 4F会議室

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（7件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 新技術の試行実証評価（1件）

「RTD-INCOTEST」(KKK-140002-A)について、平成28年7月3日現場で試行した結果を基に、技術进行评估します。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成29年1月11日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

○ 施工企画課長補佐

いちほら

市原

きのした

木下

みちひろ

道弘

いさお

功

（087-851-8061 内線 3451）

（087-851-8061 内線 3453）

※○：主たる問い合わせ先

～審議技術の概要～

＜事後評価＞

『地中埋設物長さ測定装置(CB-110028-V)』

本技術は、地中埋設物の鋼材長さを非破壊検査で測定する装置です。道路附属物の支柱や長尺物のH鋼、シートパイル等の長さ測定及び亀裂や腐食等の変状確認が可能となり、また、規定長さの健全性確認が容易に出来、コスト削減、品質の向上が期待できます。

『潜水用一酸化炭素検出装置(KKK-110001-A)』

本技術は、潜水士に対する安全を確保する装置です。一酸化炭素検出警報装置を使用し、潜水士へ供給する空気中の一酸化炭素の濃度が50ppm以上を検出したとき、警報を発し潜水士に対する安全を確保します。

『ネットワーク型転落事故救援支援システム(KTK-110002-A)』

本技術は、水検知センサーを搭載した通信機を利用し、海中転落時に船舶へ異常をリアルタイムに通知するシステムです。従来は作業員の不在から事故発生を把握していましたが、本技術の活用により、現場担当者が事故発生を即座に検知でき、迅速な救助への寄与が期待できます。

＜事後評価（再評価）＞

『YTロック工法(KK-080017-V)』

本技術は、システム構台をワンタッチはめ込み式の定尺部材を用い簡単に組立てが出来る工法です。従来は鋼材をボルト止めや溶接した鋼製構台にて対応していましたが、本技術の活用により転落・落下事故の減少、工期短縮、経済性の向上が期待できます。

『法面機械構台システム足場(KT-060089-V)』

本技術は、クサビ式システム足場(ニッソー3Sシステム)工法で、従来は単管・クランプ工法で対応していましたが、本技術の活用により、機械構台足場の強度を損なうことなく組立が出来、組立・解体作業は、安全にかつ、迅速に行なうことができます。

『キャプロア(caproa)(KK-070006-V)』

本技術は、「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」に基づき開発されたものであり、押出加工を活用した楕円形状のビームと、鋳造で成形された支柱で構成され、展望性・眺望性に富んだアンカーボルト形式のアルミニウム合金製車両用防護柵です。

『鉄筋損傷防止型防護柵(QS-080003-V)』

本技術は、橋梁の既設地覆を再利用して防護柵の取替えを行う際に、アンカー用削孔等で地覆鉄筋を損傷させる事無く設置可能な防護柵です。

＜試行実証評価＞

『RTD-INCOTEST(KKK-140002-A)』

本技術は、炭素鋼の対象物に付着・施工された被覆物(貝・海草等の海洋生成物、FRP、ウレタン、コンクリート等)を撤去せずに試験が可能で、被覆物上からパルス渦電流を対象に付加し、被覆厚さに比例した試験範囲(フットプリント)内の平均肉厚を検出する技術です。

技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp>

平成28年度 第2回四国地方整備局新技術活用評価委員会 議事次第

日時：平成29年1月18日（水）15:00～17:00

場所：高知河川国道事務所4F会議室

I. 開 会

II. 挨拶(企画部長)

III. 議 事

1. 四国地方整備局新技術活用評価委員会運営要領(案)
2. 平成28年度第1回新技術活用評価委員会の報告等
 - 2-1 平成28年度第1回新技術活用評価委員会の報告等
3. 新技術の事後評価
 - 3-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について
 - 3-2 地中埋設物長さ測定装置
 - 3-3 潜水用一酸化炭素検出装置
 - 3-4 ネットワーク型転落事故救援支援システム
4. 新技術の事後評価（再評価）
 - 4-1 今回事後評価（再評価）を行う技術について
 - 4-2 Y Tロック工法
 - 4-3 法面機械構台システム足場
 - 4-4 キャプロア (caproa)
 - 4-5 鉄筋損傷防止型防護柵
5. 新技術の試行実証評価
 - 5-1 RTD-INCOTEST
6. 推奨技術・準推奨技術の選定
7. その他

IV. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」 設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS（New Technology Information System, 新技術情報提供システム）を用いて新技術の活用を推進してきたところでありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略：順不同)

(大学 5名)

松島 学	香川大学工学部 教授 (構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)
吉田 秀典	香川大学工学部 教授 (構造工学・地震工学・維持管理工学、地盤工学、土木材料・施工・建設マネジメント)
高木 方隆	高知工科大学システム工学群 教授 (国土情報処理工学)
日向 博文	愛媛大学大学院理工学研究科 教授 (沿岸海洋工学、海岸工学)
渡邊 健	徳島大学大学院理工学研究部 准教授 (コンクリート工学)

(産業界 3名)

- (一社) 日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長
- (一社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 企画部会 部会長
- (一社) 日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

- 国土研究開発法人 土木研究所 材料資源研究グループ長
- 国土研究開発法人 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 特別研究主幹

(整備局 8名)

- 四国地方整備局 企画部長 外7名